



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

茨城県 潮来市立潮来第二中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック**：長岡 千里 先生 (ボブスレー)【出場オリンピック/トリノ2006冬季大会】

■ **期 日**：2022年11月11日(金)

■ **ク ラ ス**：2年1組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



•ボブスレー競技でトリノ2006冬季大会に出場したと自己紹介。今日の授業では、オリンピックはどのような精神や意味を持つのかを、スポーツの面だけではなく、自分の経験談を通して話していきたい。「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つオリンピックバリューについて、どのように皆の日常生活にも関わるのか、一緒に考えていきたいと伝え、授業の目的を確認し、準備運動に移る。

○主運動等



•準備体操では、ボブスレー、スケルトン、リュージュの3つのそり競技の滑走姿勢を体験。準備運動では「体を使ったじゃんけん」を実施。先生がじゃんけんの技を全身でポーズし、生徒が1テンポ遅れて技を出して競う。反射神経のトレーニングのため、じゃんけんのスピードを上げる。
 •主運動では、「新聞紙ボール運びリレー」を実施(全3回)。2班1チームに分かれて2人組を作り、新聞紙にバレーボールを載せ、破らないようにして運ぶ。折り返し地点を回り、戻ったら次の2人組に渡し、最後の組が完走するまでリレーを続ける。順位ごとに得点を決め、3回分の総合得点で競う。



•作戦タイムでは、全チームで運び方やタイムの改善方法について意見が飛び交っていて素晴らしかった。全てにおいて結果が重要ということではなく、次のチャンスで失敗を活かす方法を考え、恐れずに挑戦し続けることが大切であり、失敗や負けを繰り返した人が強くなれると話す。ゴール後も他チームを応援していた姿を見て、応援が力になると理解しているからこそ自然に出来ているのだと感じた。座学の時間では、自分のオリンピックの経験について話をするが、皆の日常にも共通して存在するオリンピックバリューを発見できるようになってほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：長岡 千里 先生 (ボブスレー)【出場オリンピック／トリノ2006冬季大会】

■ **期 日**：2022年11月11日(金)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●ヨーロッパ発祥のボブスレー競技は、氷上を時速100km以上で滑走し速さを競う。自分がしていたプレーカーという役割は、それに体を沈め下を向いたまま滑り、コースが見ることはできないので、頭の中でカーブの数をカウントし、予測のゴール位置でブレーキをかける。オリンピック出場が決まる最終選考会の1カ月前、指に怪我を負い、諦めかけていたが、友人から諦めるついでに最後までやってみるのどうかと背中を押され、最後まで頑張ることができ、初の日本女子代表として出場を叶えることができた。何事も1人の力では叶えられないと痛感し、周りの人に感謝と尊敬を感じたと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返り、チームで良かった事、出来た事を書き出そう。

発表：エクセレンス：「諦めずに頑張った」「ボールパスを練習した」「お互いに声を掛け合った」「最善を尽くした」「全力でできた」「勝利を喜んだ」等
 フレンドシップ：「良い所と悪い所を話し合えた」「相手に合わせて取り組んだ」「コミュニケーションをとった」「失敗しても責めずに応援した」等
 リスペクト：「敵も味方も関係なく励まし合えた」「勝ち負け関係なしに楽しめた」「素早い行動ができた」「尊重し合えた」等



●多くの「興味の柱」を心の中に立て、未知なことを知ろうとすること、様々なことに挑戦することで本当にやりたいことを見つけることができる。自分で決められないときは1人で悩まず、周りの人に相談し、他人の意見を聞くことも大事だ。努力すれば報われると言われるが、目標達成するためには、「報われるまで努力する」ということを意識してほしい。目標のために全力で努力している中、途中で違うと気づいたら方向転換することもできるので、多様なことに興味を持ち、多くの経験を増やしてことが大切だ。日常の様々な場面にあるオリンピックバリューを発見し、今後の生活に活かしてほしい。

■オリンピック：長岡 千里 先生 (ボブスレー)【出場オリンピック/トリノ2006冬季大会】

■期 日：2022年11月11日(金)

■ク ラ ス：2年2組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ボブスレー競技でトリノ2006冬季大会に出場したと自己紹介。今日の授業では、オリンピックでの経験やオリンピックバリューについて伝えていきたい。日常生活の中で、皆が知らない間に経験している「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの価値について、気づいてもらえるようになってほしいと授業の目的を確認。何かをする際には準備や確認をしっかりと行うことが大切である。体を動かす今日の授業では、靴紐をしっかりと結んでいるか確認し、動きやすい服装でストレッチをし、怪我がないように万全な準備をしようと伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備体操後、3つの競技の滑走時の姿勢を取り、体を使って競技の違いを体験。準備運動では、先生が出したじゃんけんの技に、生徒が技を後出して勝負する「体を使ったじゃんけん」を実施。
 ・主運動は、2班1チームに分かれ、「新聞紙ボール運びリレー」を実施(全3回)。2人組で新聞紙を破れないようにして持ち、その上にバレーボールを載せて運びコースを走り、チーム最後のペアまでリレーとボールの次送りをする。順位ごとに点数が異なり、3回分の総合得点で優勝を争う。



・運動の時間を振り返り、主運動の「新聞紙ボール運びリレー」は、チーム一丸となって、協力し合い取り組んだこと、人数が足りないチームは、繰り返し走って協力してくれたことが素晴らしい。最初は最下位だったチームも、最後は1位になる流れを自ら作ることができていた。座学の時間では、授業の冒頭に伝えた「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つのオリンピックバリューが運動の時間でどのように関わっていたのか、皆で考え話していきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：長岡 千里 先生 (ボブスレー) 【出場オリンピック/トリノ2006冬季大会】

■ **期 日**：2022年11月11日(金)

■ **ク ラ ス**：2年2組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・ボブスレー競技を知らない生徒が多いことを確認し、ヨーロッパが発祥のボブスレーは世界的にはまだマイナー競技であると話す。出場時の競技映像を見せながら、コースは特別な機械を使用し、雪ではなく氷で作られていると説明。オリンピックシンボルの5つの輪は世界5大陸の繋がりを表現し、6色でほぼすべての国旗が描けると解説。開会式では自国の名前が呼ばれるまで数時間待機後に開催国の言語のアルファベット順で国ごとに入場し、選手村では日本と異なる環境で別競技の選手たちと同じ部屋を共有していたこと等、実際のトリノ2006冬季大会時の写真を見せながら紹介する。

○個人ワーク～グループワーク等

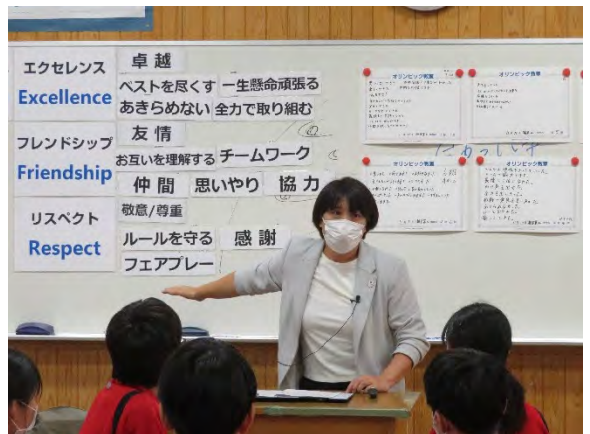


発問：運動の時間を振り返り、チームで良かった事、出来た事を書き出そう。

発表：エクセレンス：「諦めないことは大事」「負けたくない気持ちでできた」「最後に1位になれた」「1人1人が頑張れた」等

フレンドシップ：「お互いに声を掛け合った」「仲が深まった」「仲間を信じてくれた」「2回目の反省を活かした」「楽しくやっていた」等

リスペクト：「話し合いに皆が参加していた」「最後まで笑顔でできた」「作戦会議の大事さがわかった」「作戦で意見を言い合えた」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは出場選手だけが感じるものではなく、日常の様々な場面に存在し、自らの行動や言動に活かすことで、自分自身が向上していく。目標のため努力していく中で経験する苦い失敗や負けを次の糧にしていくことが重要であり、最後までやり切ることで結果がついてくる伝える。最後に、トリノ2006冬季大会のゴール場面で自身や関係者が映っている写真を見せ、スポーツは、観客、審判、報道等の多くの関係者の存在で成り立っている。皆の人生でも、周りで支えてくれている人に対して感謝やリスペクトの気持ちを忘れないでほしい伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

